

本日は、例年になく早く咲いた桜のもと、私たち修了生のためにこのような盛大な式典を催して頂き、誠にありがとうございます。今日、ここに至るまで歩みつつけることができたのは、研究科委員長である前野先生をはじめとした教職員の皆様、そして共に学んだ8期、10期の皆様のお力添えがあったからです。ありがとうございます。また、修了生を代表してあいさつを述べるという身に余る名誉を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。この場に立てたのは、何度も夜遅くまで研究相談に乗っていただいた、指導教官の五百木先生のお陰です。本当に有難うございます。

2年前、私は自分のサビ切って、凝り固まった考え方を改めるべく、どんな荒波にも耐えようと決意して、協生館の門を叩きました。この2年間で大きなものから小さなものまで、本当に多くの荒波を体験しました。考え方を刷新することは斯くも難しいことなのかと打ちひしがれそうになったこともありましたが、今となってはその荒波を越えてきたことが、自分の血となり肉となり、次の時代へ向かって行く、自信となっていることを実感しています。特に私にとって大きな波は、理系ではない人たちに自分の考えていることを伝えることでした。修士研究では、審査会の直前まで、「何か難しいことをしている」としか理解していただけていませんでしたが、審査会本番では、会場にいらっしゃった全ての方に私の研究成果を理解して頂けました。この波を乗り越えたことは、私のSDM生活だけではなく、人生においても、大きなブレイクスルーとなるのではないかと感じています。

私たちは、今日を境に、未来を再設計するために、銀杏並木の坂を下り、社会へと出ていきます。そこで私たちが、何を考え、何を為すかがこれからの私たちに真に問われていることです。SDM設立10年の集大成として、私たち9期一同、SDM修了生として胸を張って、社会の様々な問題へと取り組み、貢献することで、SDM学の偉大さを広め、SDMへの恩返しをしていきたいと考えています。

システムデザイン・マネジメント研究科の益々のご発展と、SDMで学ぶすべての方々のこれからのご活躍を祈念して、修了生代表のあいさつとさせていただきます。皆様、本当に有難うございました。

2018年3月28日

慶應大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科  
修了生代表 草川 靖大